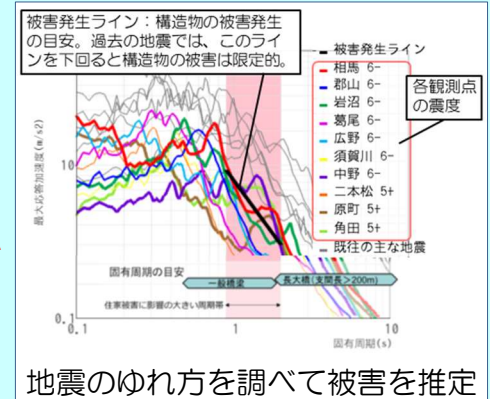


地震、津波、大雨、洪水、土砂くずれなどの災害が発生すると、国総研の研究者は、**被災地(ひさいち)をお手伝いする、助っ人技術者に変身**します。災害後は、同じようなことが起きないようにするための**対策を検討し、実装**を進めています。

情報の収集・共有

国総研では、大規模な災害が発生すると**すぐに災害対策本部会議**を行います。災害対策本部会議では、それぞれの**研究者が集めた情報を共有**します。また、**国総研の研究成果を活用して災害の規模などを推定**し、国総研の研究者および関係する人たちに共有します。



復旧・復興のお手伝い ～助っ人技術者出動～

災害により、家屋や堤防(ていぼう)、橋、道路がこわれてしまったときには、さらに大きくこわれることを防いだり、とりあえずの復旧をするため、国や被災地の自治体などの人が、どの様にこわれたかの調査や直し方の検討などをします。そんな時、**家屋や堤防、橋、道路、土砂くずれなどの研究をしている国総研の研究者**が、**助っ人技術者**となって、被災地に行きます。助っ人技術者は、被災地の自治体などの人たちといっしょに現場に行き、**直接アドバイス**をします。



令和3年8月の大雨
土砂災害調査結果を新聞記者などに説明
(長野県岡谷市)



令和3年7月1日からの大雨
被害の様子の調査
(静岡県熱海市 逢初川 土石流災害箇所)



令和3年7月1日からの大雨
被害の様子の調査
(静岡県沼津市 黄瀬川大橋)



令和2年7月豪雨(ごう)
被害の様子の調査
(熊本県 球磨川 道路橋)



令和2年7月豪雨(ごう)
被害の様子の調査
(熊本県 球磨川 堤防欠損箇所)



令和2年7月豪雨(ごう)
土砂災害の対応について
地域の職員へアドバイス
(滋賀県 高島市)